

## D P ・ F P 20 ヶ 条

1.	DP(指名打者)とは、基本的に打撃専門のプレイヤーのことをいう。FPとは、DPの守備者として、基本的には守備専門のプレイヤーのことをいう。
2.	DP制を採用した時は、その場合の試合人数は10人である。
3.	DP・FPを用いる時は、打順表に記載しておかなければならない。試合の途中から用いたり、やめたりすることは出来ない。
4.	DPの打順は、何番でもよいが、その試合中に <b>打順を変更することはできない。</b>
5.	FPの守備はどこでもよいが、打順表に記載する時は <b>十番</b> におき、十番にいるかぎり、打席に立つことは出来ない。
6.	DPとFPは、試合中いつでも <b>控えの選手と交代できる。</b>
7.	DPは本来打撃専門の選手であるが、FPの守備を兼ねることが出来る。その場合、FPはベンチへ退くので、試合人数は9人となる。
8.	FPは、本来守備専門の選手であるが、DPの打順に入り、打撃を兼ねて( <b>代打、代走</b> を含む)攻撃に参加することが出来る。その場合、 <b>DPはベンチにいったん退くことになり</b> 、試合人数は9人になる。
9.	FPはDPの打順に入ることが出来ても、他の打順に入ることが出来ない。
10.	DPとFPは、 <b>スターティングプレイヤーであれば</b> 、いったん試合から退いても、他の選手と同じくいつでも一度に限り再出場できる。
11.	DPとFPを、そっくり入れ替えることはできない。
12.	FPの守備位置は、他の野手と守備位置を交換することができる。
13.	DPが守備のみ、FPが攻撃のみのプレイをすることは出来ない。
14.	DPが再出場する時は、 <b>元の打順に戻らなければならない。</b>
15.	DPが再出場する時は、攻撃のみのDPとして戻るか、守備を兼ねて戻るのかをはっきりと、球審に告げなくてはならない。(「のみ・兼ねる」の通告が必要)
16.	その際、DPの打順にFPが入っていれば、FPは十番に戻って守備専門になるか、ベンチに退くか、控え選手と交代するかなどの通告も必要になる。
17.	FPが再出場する時は、十番目の守備者として戻ることが出来る。
18.	FPが再出場する時は、DPの打順に入って、打撃と守備を兼ねて戻ることにも出来る。17・18のいずれも球審に告げなくてはならない。試合人数は9人である。
19.	平成17年度より、 <b>DPはいつでもFP以外のプレイヤーの守備を兼ねることが出来る</b> ようになった。(打順を変えてはいけない) その時、 <b>守備位置をDPに譲った野手は、そのままの打順で打撃のみ</b> を継続する(打撃のみの選手「OPO」という)ことになり、ベンチに退く必要はない。従って、試合人数は10人である。
20.	選手の交代はそのつど、全て球審に告げなければならない。DPやFP、また、再出場に絡む時は、攻撃のみなのか、守備を兼ねるのか、兼務を解除するのかを明確にして告げなければいけない。不正な交代や無通告だと、相手チームからアピールがあったりした時、退場などの不利益を蒙ることがある。